

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス 大和園彩多			
○保護者評価実施期間	R7年11月3日		～	R7年11月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68	(回答者数)	49
○従業者評価実施期間	R7年11月3日		～	R7年11月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	R7年12月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児・放)静かに過ごす部屋と身体を動かす部屋に分け、活動の切り替えを行っている。 放)宿題をするときは、部屋を移動し環境設定を行っている。	児・放)ホワイトボードでのその日の予定を、写真やイラストを使用し掲示している。 放)玩具や自立課題などの置き場所に見てわかるよう写真を貼って構造化を行っている。 児)必要のないものや掲示物は置かず、視覚から入る刺激を少なくしていく。	・引き続き、構造化を行っていききたい。 ・カームダウンスペースの設置を検討している。
2	放)活動プログラムの充実	・遊びの内容やお楽しみおやつなど、毎月設定している。長期休みはクッキング・工作・イベントのプログラムを盛り込み(夏はプールも)、子どもが飽きずに楽しめるよう工夫している。 ・公共交通機関を利用したり、お買い物でお金を払うなどの機会を設けている。 ・県外への外出の機会を設けている。	・外出プログラムを増やし、バスや電車に乗る経験やマナーを学ぶ機会を増やしていきたい。 ・季節の食べ物や行事、それにまつわる歴史などを伝えながら食育の機会を増やしていきたい。
3	放)自分で考え選択する環境	・出来る限り自由時間は静かに過ごす部屋、身体を動かす部屋、裏庭と自分でどこで何をするか決めて遊べるようにしている。 ・高校生などは自分でスケジュールを組み、プログラムの参加や自立課題を行っている。	・自分の意見を伝える場面を増やし、支援者から提供された内容だけでなく、子どもたちも参加して作り上げていく場面を増やしていきたい。
4	児・放)保育士や児童指導員、社会福祉士、介護福祉士といった職員が常勤で療育にあっている。	・運動療育に関して、作業療法士が在籍していないので、研修や勉強会を行い、職員が知識と経験を積めるよう行っている。	・作業療法士の募集を行い、より専門的な支援につなげていきたい。
5	児)1人1人の発達に合わせた支援を行っている。	・午前の枠は1対1の個別療育を行い、午後の枠は5人の集団療育を行っている。集団でも担当の支援者が一人ずつ付き支援を行っている。	・個別療育でもいづれは集団へと移行できるよう子どもの発達を見ながら支援していく。
6	児)運動療育・感覚あそびに力を入れて支援している。	・運動療育は感覚統合器具などを使った運動を取り入れたり、感覚あそびでは触覚・嗅覚・視覚・味覚を刺激するあそびを行っている。 ・季節の食べ物や植物などを紹介し、自然に触れる時間を設けている。	・運動療育：新しい感覚統合器具の導入。 ・感覚あそび：引き続き様々な素材を使用し、発見や気づきを大切に支援していく。
7	児・放)イベントの開催・アートプログラム	・ご家族、ごきょうだいの参加できるイベントを行いSNSで発信している。(・R7は夏祭りの一環として、アートプログラム「ひかりと影の探求」を行った) ・子どもたちが描いた絵や作品をInstagramに掲載している。	・今度も定期的に開催していく。
8	児・放)送迎を行っている。	・保育園、こども園、幼稚園、学校、ご自宅への送迎を行うことで、送迎のできないご家族も療育に通うことが出来ている。	・引き続き送迎を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児・放)地域との交流・地域住民との関わりの少なさ	・地域の公園や図書館などの利用はあるが、地域住民との関わりは少ない。平日は下校時間の関係や、支援時間の短さによりその時間を作ることも難しい。	・引き続き、地域の公園や図書館など利用をしていきたい。児童館や、他事業所さんへの訪問も行っていきたい。
2	児)保育所や、こども園、幼稚園等との交流がない。	・保育園やこども園、幼稚園に通いながら療育に来られている方がほとんどであり、それに対する要望もない。	・未就園児に対して交流の場を検討していきたい。
3	児・放)安全計画や各マニュアルなどが周知されていない。 児)避難訓練が支援中に出来ていない。	児)支援時間が短く、避難訓練に充てる時間がない。	児)避難訓練も支援の一環として行っていく。 児・放)各マニュアルをPDF化し、周知を図っていく。
4	児・放)保護者会の開催や保護者同士の交流	・保護者会を開催しても参加人数が少ない。	・親子、ごきょうだいも一緒に参加できるようなイベントを増やしていく。